



平成24年2月
第13号

伊佐 市議会だより



菱刈鉱山初荷式

主な内容

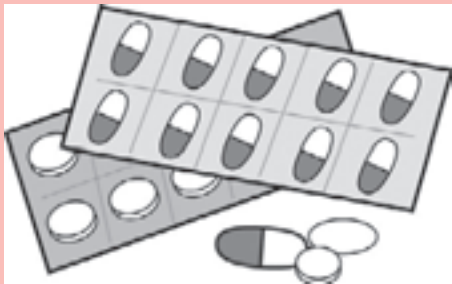
- 補正予算概要 P 2
- 委員会報告 P 3 ～P 4
- 一般質問 P 5 ～P13
- 行政調査報告 P14～P15
- 議員定数調査特別委員会報告 P 16
- 請願と陳情の結果 P 17
- コラム P 18
- 統括質疑・表紙によせて P 19
- 議会を傍聴して・編集後記 P 20

12月補正予算可決。

一般会計の補正予算
1億8229万7千円
(総額161億9776万1千円)

生活保護費医療扶助を増額

9400万円



太陽光発電システム設備支援
を強化

470万円



東日本大震災による公務災害
補償費を負担（消防団員）

870万円



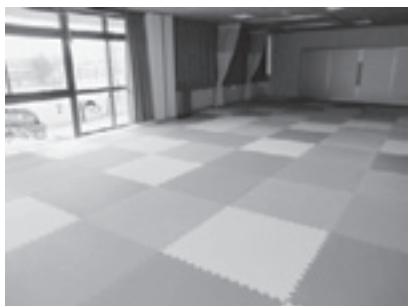
忠元公園を整備
(ジョギング・ウォーキングロードを整備)

1200万円



平成23年度伊佐市 各委員会報告

平成23年度12月補正予算案に対し、12月7・8・9日の3日間、委員会で審査しました。その中で主なものを取り上げ、委員会の質問を「Q」とし、担当課の答弁を「A」としています。



環境福祉委員会

健康増進課

菱刈保健センターに「セラピーマット」100枚購入

使用目的は、

Q 乳幼児健康診査や保健指導、親子教室の開催、及び予防接種事業等を実施する時、必要に応じて取り外し、洗浄・消毒を行えるセラピーマットが、衛生管理上、望ましいと判断し購入費33万9,000円を予算化した。

市民課

特定健診受診率
48.8%

Q 受診率は目標達成出来るのか。

A 国の目標は、平成21年度32%、22年度40%、平成23年度50%、最終年度の来年が65%となっている。今年度12月5日現在の受診率は、48.8%である。医師会と市民の理解を得て、医療機関情報提供委託を250人追加し、年度末合計750人とし目標達成したい。



福祉事務所

徳辺保育所
閉所時に石碑

Q 徳辺保育所の委託料40万円の内容と跡地利用は。

A 今年度末閉所するにあたり、表に保育所跡の文字と、裏面には保育所の写真を刻んだ石碑を予定している。跡地は、今後、市全体で検討する。



長寿支援課

緊急医療情報キット
2300個配布

Q 事業内容と状況は。

A 独居高齢者等が冷蔵庫に保管するキットは、現在2,121件を配布済みで、今年度末2,300件とした。

また緊急医療キットの配布先は、消防本部に連絡しており、12月まで10件程度利用された実績がある。



各委員会報告

経済建設委員会

地域振興課

忠元公園の整備

Q ジョギング、ウォーキングロードの整備は。

A 昨年度300メートル施工済み、残りの部分400mである。新納忠元公没後400年記念事業も、行っている。市街地に近い、市民が利用しやすい場所でもある。



財政課

普通財産の無償貸し付け

Q 南国交通（株）の状況は。

A 一便あたりの、乗車率が低く、非常に経営が苦しい。極めて公共性が高く、少しでも長く営業をしていただくようお願いしている。



建設課

里町、轟公園線の市道認定は

Q 改良。今後の構想を示せ。

A 認定基準を6項目設けており将来第1号から、第4号までの規定に適合するように改良していく。特に防災対策上、重要と認める路線である。また、完成予定は平成27年度である。



総務文教委員会

学校教育課

扶助費補正 小学校13万6千円 中学校11万3千円

Q 中学校がなぜ多いのか。

A 扶助認定者となっているが、23年度当初予算で中学校を過少見積りした。

会計課

公用車払い下げ収入197万4千円

Q 払い下げ台数と価格

A 8台の払い下げ。29人乗りバスで104万1,000円、バンで2万4,000円であった。



総務課

難視対策補助金 530万3千円

Q 難視対策の今後は。

A 6月末で対策は終わったが今後も2戸3戸と少数の戸数地区で出てくると思われる。国も3、4年補助金を組んでやっていくとのことである。今回は山野の尾之上地区5戸に対する補助金である。



市民生活の 向上をめざし 一般質問 17人



丸田 和時 議員

めざせ 六次産業化

問

T P P 参加が懸念される中、農業

形態の変化も必要となるが、農産物の付加価値をつけ、収入増につながる加工品の開発や販売ルートの拡大が必要となるが、農商工等連携事業や六次産業化法の利用による加工場の設置とそれに伴う雇用の拡大を図る考えはないか伺いたい。

答

加工場をつくることには前向きでありたい。運営や技術のノウハウの集積を見極めながら国や県の事業を引き出して、行政と民間とお互い出資していくような形にしたい。

問

加工場についてのノウハウをどのように考えているか。また、取り組みの可能性は。

答

実績のあるところから入り、現在成功しているところ、あるいは一つの兆しがあるところに私達が一緒になって、プランニングする形になると思う。24年度から、取り組みたい。

問

平出水川の改修を

平出水川は県河川であるが、平成18年の北薩豪雨災害以来4回堤防の越水をし、水田の中を川のように流れ大変な被害を与えた。地元住民は毎年このような災害を受けるのではないかと大変危惧している。早急な対応と河床の堆積土の除去を願いたい。

答

県河川においても、市がある程度負

その他の質問
○ツーリズムの充実を

※六次産業化とは
一次産業を基として、二次産業三次産業という葉が付き、六次産業化という花が咲くようにイメージした農林水産省の政策です。



市長の政治姿勢と職員数は

鶴田 公紀 議員



問 合併後3年、当市の浮揚対策で24年度の具体的事業予定と内容を示せ。また、新聞紙上で、大口電子がLEDに使用される基盤製造を事業化、投資額12億円、10

月稼動を目指す」と報道された。市長の情報キャッチは何時だったか。採用予定人員は何人くらいか。

答

「安全安心・定住の推進、子育ての支援、農産物販売の拡大、雇用や仕事の創出、緊急雇用対策事業継続である。大口電子については、平成22年秋頃には情報を察知した。採用人員は把握していない。

問

市全体の職員数、嘱託職員数、臨時職員数及び今後の年度別退職者数と今年の採用予定者は何人か。職員の定数条例は350人である。現職員数は292人とのこと。地方分権等で事務量増加に伴う事務処理は問題はなく、市民サービスも絶対に低下させない職員数なのか。

答

総職員数292人、嘱託職員数88人、臨時職員73人、3月退職者数6人、24年度14人、25年度12人、26年度



7人、27年度14人退職予定、24年度採用予定は6人。職員が自分の能力をアップして仕事をするのが職業人だと思う。地方交付税を基本とした職員数は263人である。

その他の質問
○県道鶴田・大口線道路改良は。

問

24年3月で閉校となる山野西小学校への市長の思いは。

答

市議会議員時代に養鶏を営み、生活の3分の2は、山野西校区にあった。学校は花がいっぱい、肥料等を提供させてもらい、一緒につくった思い出もある。戦前は本校、分校という言い方があったと思うが、本校に劣らない僻地教育をやっておられ、まさに教育の原点であったと思う。今は車社会になっていくが、竹屋敷などからの長距離通学は、大変だったと思う。そういう意味からも僻地教育の一つのモデルとなっていたであろうこの学校を、今回このような事情で灯を消さなければならぬの



問

は、一番の痛恨の極みである。

答

学校跡地の活用について

現在はまだ授業や活動が行われており表面化させてはいないが、仮称「学校跡地利用の検討委員会」の設立を考えている。副市長を委員長として、地元の方もオブザーバーで入っていただきたい。委員会に任せることになるが、個人の考えとしては、「新しい同窓会、大人の学習、子どもの体験」をキャッチフレーズにしたい。山野西小学校を巣立っていった子どもたちは全国にたくさんいる。また、四季折々のこの地が好きというファンもおられ、そういった方を含めた、

閉校後の地域活性化策は

森山 善友 議員

新しい同窓会みたいな学習と体験の場、文化や芸術、また、花や野菜の栽培、軽スポーツ等に活用できないか、提案していく。



ジビエ振興対策は

中村 周二 議員



問 長野県に研修にい
き、帰ってから、始
良伊佐地域振興局も入れ
て、勉強会を行った。長
野県も、鹿児島県も、防
除対策、捕獲対策、生息
環境対策は、一緒だが、

問 シカの有害駆除料
は7000円、獵期
中は、0円だが、1年を

一つ違うのは、ジビエ振
興対策だ。県のやるべき
ことで、ジビエ衛生管理
ガイドラインと、ジビエ
衛生マニュアルを作って
いただくよう、県へ発信
していかないか。また、
長野県は、鳥獣処理施設
が、13か所ある。鹿児島
県は、伊佐1か所であ
る。始良伊佐の市長会の中
で、施設を増やす話し
合いはできないか。

答 県の対策の中に
は、ジビエの考えは
ない。地域振興局の人を
呼んで、会をしたという
ことは非常に意味がある
ことである。次は私ども
の方で、正式にしかるべ
き部署に意見を上げてい
く。鳥獣処理施設につい
ては、できると思うが、
本来は県が中心であるの
で、知事と語る会の中で、
知事に申し上げるととも
に、地域振興局長にも話
していく。

通して、個体調整をする
ということ、補助は出
せないか。また、ジビエ
での学校給食等考えられ
ないか。

答 個体調整のため
に、新たな補助金制
度を、県に要望していく。
給食については、公教育
の場での食育は、まだ課
題があるが、広がって一
般的になって行けば、学
校給食の中にも、取り入
れる道が、開けると考え
ている。

ジビエとは

狩猟によって捕獲され
た野性鳥獣のことで、ジ
ビエ料理とは、その肉を
食用として用いた料理の
ことを言う。(フランス
語)



また地域医療施策は県
立北薩病院を中心におい
ているが、全国的に、地
方の医師の確保が困難で
ある中、小児科医を2人
確保できているという
点、脳神経外科医は、県
境を越えて協力病院が確
保されている事やドク

答 「住民の生命、財
産を守る」という
点では、口蹄疫対策で、
全職員を挙げて対応し、
防疫できた。18年水害
からの復旧、復興は、
100%に近い復旧がで
きた。

問 市民との公約であ
る「マニフェスト」
の重点目標は、4年間で
なすべき事業を示されて
いる。残すところ1年で
ある。各分野の評価はな
されているのか。



マニフェストの 実績と課題

前田 和文 議員

ターヘリの離発着場の整
備も実績とした。

高齢者対策では、グ
ループホームを3事業所
36床、小規模多機能型1
カ所を、今年度末まで
整備する。しかし介護
保険料は、基準月額
3600円で、県下でも
4番目に低い保険料で運
営できている。今後も子
育て支援と同様に関係機
関と連携し、独自の細か
な施策を図る。

問 農畜産業について
はどうか。

答 トップセールスを
行いながら、ブラン
ド推進係をおき、伊佐
米・カボチャ・ネギの販
路の拡大を図り、また種
牛を絞り高価格の子牛を
生産する対策に取組んで
いる。



市内の消防団員の
処遇の統一化を急げ

問 消防団の組織・報
酬再編への取り組み
状況は順調なのか。

答 活動自体はスムー
ズであるが菱刈方面
団は年俸7万7500
円、大口方面団は5万3
000円で、2万7200
円の差がある。報酬の協
議が調っていない。鋭意
努力して合意点に達する
ようにする。

スポーツ大会で 活気を

鷺 木 誠 議員



問

スポーツはあらゆる面に効果があるのは周知の通り。23年度よりコミュニティ協議会が動き出した。それと共に菱刈地区の自治会対抗のスポーツは激減し、大口

地区はコミュニティ内の対抗競技で終わっている。市内全体の対抗意識を持たせることにより、自治会内の青年や壮年の交流を活発化し、むらづくりを進めるべきではないか。今は良いが、今後影響が出てくるのではないか。

答

●市長

活動はコミュニティに任せており、概ねうまくいっている。陰りがあれば対応が必要だが小さな自治会もあり無理な気がする。

●地域振興課長

これまで、大口地区はコミュニティ単位菱刈地区では自治会対抗と活動の方向が違った。今後の方角性も考えてきたので活性化を考える。スポーツを通じて活性化は、文化スポーツ課と協議する。

●教育長

スポーツ活動で地域住民の連帯感や意義があるが文化スポーツ課では自

治会活動にはタッチしていない。

県道菱刈〜横川線改良は

問

県道菱刈横川線は伊佐市と霧島、始

良、鹿児島市への産業道、通勤道として重要な道路であるが、救急車も通れない急カーブが多い道路で改良が全く進まない。県及び関係市町との協議をしているのか。

答

空港、鹿児島市への重要な道路であることは承知している。23年度に始良伊佐地区土木協会を設立し県への要望書提出の協議を始めている。



問

新曽木大橋の開通による観光PRはどのようなのか。滝つぼ周辺の色々な岩のネーミング、マイナスイオン、縁結びや安産祈願の清水神社等、宝の山である。もつと打って出るべきではないか。

答

開通式後、県の観光交流局長や旅行業の方々の話もあり、早速、県の観光連盟が5万枚のパンフレットを作成し、旅行代理店に配布することになった。仕掛けも大事であり、現在観光ガイドを要請中でアイデアも期待できると考える。

問

旧大橋の手前に約40aの市有地があるが、駐車場に出来ないか。また、この橋を遊歩道に残せないか。新大橋には、



新曽木大橋で 活性化を

福本 千枝子 議員

問

特定健診受診率65%の目標が24年度である。達成が出来なければ、約4千万円の持ち出しとなる。目標達成に向け、市民一体となつて取り組まなければならぬが、どのように努力するのか。

答

平成23年度より1000人の受診者の増加が必要である。医師会と連携をとり、医療機関での個別受診を強化する。

夜間の明かりがなく、非常に危険である。建設される小水力発電所の電気利用は出来ないか。
駐車場は作る。旧橋の保存について
は、メンテナンス等が市の持ち出しとなる。「滝百景」に入らなかった原因でもあり、今のところ、新大橋の完成とともに取り壊すということになっている。新大橋の夜間の明かりについては車両を中心とする生活道路であり、明かりは必要ないとされていたが、再度議論してもらおう。小水力発電所の電気利用についても大橋が公園内と位置づけすれば出来ると思う。

特定健診の受診率向上に努力を



伝統文化の 継承・活用は

柿木原 榮一 議員

知っていたら、文化財を保存するための整備をし、次の世代に伝えたい。

問

伊佐市合併3年になるが、伊佐市の歴史を検証し、振興に役立てるために、すでに学芸員の資格があり、古文書に明るい職員の活用はできないのか。

答

職員構成から、専任は難しい。

再生エネルギー計画は

問

曾木の滝河川水利用の小水力発電所の連携範囲はどこまでか。

答

準備の段階を除けば、すべて日本工営で行う。

問

農業用水路・農業用ため池を利用した小水力発電の農水省の平成22から25年度までの事業があるが、考えているのか。

答

事業主体がしっかりとしていないといけ



問

第1次伊佐市総合振興計画の政策の歴史・伝統文化の継承と活用で施策の目的達成の取り組みは。

答

市民の皆様が郷土の歴史・伝統文化を

ないので、指摘された様な所は考えていない。



問

伊佐市の基幹産業である農業・林業・畜産業、そして観光や特産品の開発など、活性化させ、うまくまわしていく事で、地元地域の為に頑張ろうとしている若者達がしっかりと地に足をつけて生活が出来る様にすべきである。そのため取り組みは。

答

地域経済の中における若者のあり方で考えるならやはり業を起す若者にいかに支援できるかという事だと思う。

いろんな支援の仕方がある。二つ目は商店主や農業主などの後継者になる者にどの様に指導し、育てるか。三つ目は病院勤務する人などの資格取得であったり、企業で働



地域の若者と 地域おこし

緒方 重則 議員

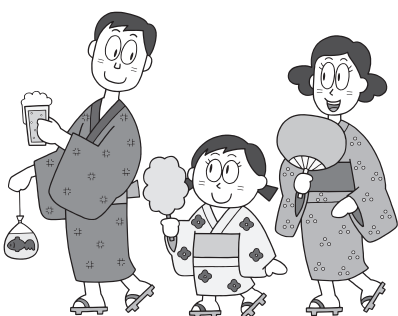
く人たちが外国語を勉強する必要があるとき、行政として企業主と共にどのような支援が出来るか。将来この街に残る若者を中心にして考えたとき、この三つを考えていかなければならないと思う。そして20年後のこのまちをどのようにするかという事を本当に真剣に考えて議論し参加することを望んでいる。

問

年間を通して各校区コミュニティ、行政が行なう祭りやイベントが定期的に重なってしまふ。連携させる事により地域おこしとして盛り上げる事は出来ないか。

答

人数を集めることを目的にするのか、本来の趣旨を大事にするのを第一義的にするの



か、両方とも追うのかというその捉え方だと思う。行事にはその地域の譲れない日にちがあり、強制的に動かすことも、非常に難しい。一日の中において同じ人がいくつも回るという確率はそんなに高くない。あとは広報をご覧になった方々の判断によるが、まず重ならない日程をつくるというのが大事だと思う。

市長等の退職手当を引き下げよ

岩元 克頼 議員



問 伊佐市特別職の職員に関する条例では、退職手当について、鹿児島市町村職員退職手当組合条例の定めるところによると規定されている。実情を伺いたい。

また、従前から特別職の退職手当が高額すぎるとの指摘がなされ同感だ。市長はどう考えるか。

答

市長の退職手当は勤続1年につき給料月額額の100分の500。4年間で1588万円。副市長は100分の250で703万3600円。教育長は100分の250で582万円となる。同じ制度になっているが県内では伊佐市を含め7市となっており、額については著しく高いとは思っていない。また、高いとか低いとか考えたことが無い。

問

市長は市民の代表者であり、退職手当の原資が税金であること、市民の中には退職金など無い方も大勢おられる訳で真剣に考えてみるべきだ。大阪府の門真市では特別職の退職手当に関する特例で市長の退職手当を支給しないとし、副市長ほかについても減

額措置をとっている。小

泉元総理は在任期間5年6カ月で退職手当が658万円であった。こういう現実をどう考えるべきか。特別職の退職手当は一度大きく見直すべきではないか。報酬等審議会を活用しても良いのではないか。

答

市民の方々のご意見を集約すればなどを考える場合に、そういう点では報酬審議会を開くことによつてご意見を伺えるかとも考えるので検討してみたい。



問

279自治会で高齢化率の高い自治会はどれくらいあるのか。

答

65歳以上の住民割合が50%を超える自治会数が57で、全自治会数の20.5%を占めている状況。30世帯以下の自治会数は143で51.4%。

問

独居世帯や支援を必要としている人はどれくらいか、高齢化率の高い地域に対して担当職員の配置はできないか。

答

住民基本台帳を基に高齢者福祉台帳を作成し、755人に民生委員の方々が支援を行っている。自治会に担当職員をおくということは今のところ検討していない



高齢者への対策は

諏訪 信一 議員

が、コミュニティをサポートする意味での支援の制度に似たような形のものを検討していきたい。

安心できる生活を

問

1年間の生活保護の件数と、どんな理由で申請されたのか伺いたい。

答

新規申請は45件で、31件が生活保護を開始している。理由としては、世帯主の疾病がいちばん多く、勤務先の解雇、老齢による収入の減少、事業不振・倒産、預貯金等の減少・喪失、転入が挙げられる。係への相談は68件あった。

問

消費者相談窓口の利用状況と内容、ま

答

相談件数は22年度75件で、相談の多いものとして訪問販売、電話勧誘の販売、金銭関係、通信関係等がある。うち43件を相談員が助言して解決した。自殺者は21年度15人。職員向け研修会を行っており、関係機関にも呼びかけ、自殺の実態と対策の必要性、相談者の悩みに寄り添う面接の研修会等を企画している状況である。



白紙に戻せ 中学校再編

畑中 香子 議員



問 中学校再編は地域の衰退にもつながるのではないか。
また、中学校時代は多感な時期である。さまざまな問題を抱えている。中学校を統合することは

更なる負担を子どもたちにかけることになる。

答 小学校があるの
で、衰退にはつながらない。また、校長を中心に、教育委員会も強く指導し、理想的な学校に近づくように進めている。

問 少人数指導で、より行き届いた教育ができるのではないか。統合にかかる国の指針では、地域住民の合意がなければ統廃合はできないこととなっている。計画は白紙に戻すべき。

答 教師が少人数体制をつくったり、習熟度別指導体制をつくることで、より適した指導ができる。各小学校で保護者、地域の方々に説明会を行い理解を得ている。

介護保険料引き下げを

問 改定介護保険法では、介護予防・日常生活支援事業が導入されると、費用は介護給付の

3%以内となっているが、この枠内でのサービス提供は可能なのか。

答 地域支援事業の中での任意事業でやっている生活支援サービスが、一部この事業に移行するので、大幅に変わることはない。

問 保険料の値上げが試算で示されているが、基金の取り崩しで、保険料引き下げに充てるべきではないか。

答 各基金の取り崩しを予定しているが、引き下げをしても4千円程度の額になる。



問 鹿児島県中学校駅伝大会を見ると、伊佐の中学校からは一校も出場していない。私の知る所では、この様な低迷期は無かった。過去においては、大口中、明光学園等、九州大会、全国大会出場等、輝かしい伝統を持つ地域である。現状をどう考えているか伺い

答 伊佐市の児童生徒の体力、体格について伺いたい。
体力については、小学校は県、全国平均を上回っている。中学校は県平均を上回っているが、全国平均には及ばない。体格面では、身長は男子は小・中学校とも県平均並みであり、女子は県平均を上回っている。



体力・体格 競技力の向上を

沖田 義一 議員

たい。また、スポーツの基本は、まず、走る事からと考えている。その環境整備と思うが「クロスカントリー」が出来る所が必要であると思っている。

答 伊佐地区の中学校の過去の活躍を伺い、すばらしい成績をもたらすような教育活動、児童生徒の育成をしなればと強く思う。中学校の部活動の指導、地域、保護者の応援をもらいながら、また小学校での体力、体格の向上に努めてまいりたい。
「クロスカントリー」については、教育委員会、体協と相談しながら検討していきたい。



旧曾木大橋を活かせ

古城 恵人 議員



問 交流人口を増やすには、公園整備が必
要だ。そのために旧曾木
大橋を歩道専用の橋とし
て残す働きかけは考えな
いか。また県道404号
線は迂回しなければなら

ないことから、さかき屋
から新曾木大橋につなぐ
改良計画はないのか。

答

橋を残すとなると
メンテナンスにかな
りの金が必要だし解体に
もお金がかかる。新曾木
大橋ができたら旧大橋は
解体するのが前提だ。

問

曾木の滝観光協会
や地元の市民の夢を
かなえられないか。

答

この議会で二人か
ら意見をお聞きし
た。これが全員というこ
とになれば別だが金額も
かかる。皆さんの意見を
聞きたい。

観光資源の魅力を高めて

問

樹齢千年を超える
「三州谷の大ケヤキ」
は、昭和63年から伊佐市
の文化財に指定された。
10数年前落雷で損傷して
から樹勢回復に500万
円近い予算を投入してき
た。8月に倒伏、銘木市
場で1750万円で落札
された。市は、この文化

財の保存や対応について
どう対応されたのか。

答

倒伏で文化財の滅
失届けを受けた。市
は、樹勢に努めたが文化
財指定解除した。所有権
は国にあるので北薩森林
管理事務所の一部貸与の
要望書を提出した。根の
部分や胴回りの部分は搬
出は無理と判断し、枝を
再来年後展示できるよう
にした。

問

三州谷大ケヤキ現
場の保存構想はない
のか。

答

枝といえど、かな
りの大きさだ。後継
にはクローン苗木を里帰
りさせる手立てを考えて
いる。



問

伊佐市の国勢調
査を調べてみると
2000年が3万350
8人、2005年が3万
1499人で5年間に2
009人減少である。2
010年は2万9304
人で2195人減少だ。
20年後の人口は単純計算
すれば国勢調査は5年に
1回なので20年間に4
回、2195人×4で
8780人が減少して
2万524人になる。し
かし、回を重ねるたびに
減少人口は多くなつてき
ており、2万人を割る可
能性が大きいと考える。
そこで、少しでも人口を
減らさないためにあらゆ
る対策を講ずるべきと考
える。そのためのひとつ
としてUターン者の空家
改修の助成（限度額50万

Uターン改修助成を 10年に

植松 尚志郎 議員

答

確かにUターン・
Iターン者を対象に
したこの事業の20年は長
いので、10年程度に調整
する考えである。また、
総合的あるいは複数の
手段によって人口減を食
い止めなければならない
という提言であるが、全
くその通であり、来年度
は青年団の企画で出会い
の場作りができないか、
出会いの場になるであろ
うという事業に対して支
援できないか等あらゆる
人口減対策を考える。



湯之尾地区の整備を急げ

左近充 議員 論



問 湯之尾の川内川旧河川は、激特事業の捨土で埋め立てられているが、セイタカアワダチソウや、雑草、木が生え、景観が悪い。旅館もあり、神舞やパークゴルフ、カ

ヌーに県内外よりたくさん
の交流人口がある。整備
してクロスカン トリー
や、ジョギングコース等
出来ないか。

答

この付近は国土交通省の所有になって
いるので、どういうふう
に借りることが出来る
か。整備する事が出来る
か。地盤沈下のこの地域
の状況を見ながら整備し
ていくことになるうかと
思う。

問

国土交通省川内川
河川事務所は、市で
管理するようになってい
るとのことだったので、
市でも、国土交通省と話
し合いをして、整備でき
ないか。

答

菱刈出張所の所長
も新しく代わられた
ので、この件を、どの程
度ご相談できるものか、
話させていただきたい。

問

この橋は、橋全体
が老朽化して、橋脚

湯之元橋の整備を



も弱く、危険な状態だ。
車を通るときは、橋が揺
れ歩行者は怖い。安心安
全な橋に整備できない
か。

答

平成24年度に長寿
命化修繕計画を策定
することになっており、
この中で方向性を出すこ
とになる。一つの考え方
としては、撤去して旧河
川の流量に見合う暗渠を
設置し、下流側に変更し
た新路線等が考えられる
が、長寿命化修繕計画を
策定する中で、意見等を
聞きながら、地元につ
合した形と、流量を考えな
がらということになるう
かと思う。

問

新曾木大橋の開通
を機にこれまでの観
光事業を総括し、新たな
展開を期すべきだ。また、
伊佐市を内外にPRして
いくとのことだが、各課
を横断した取り組みが成
されていない。どの様に
対処するか。

答

観光戦略について
は、曾木の滝を中心
に旅行会社のツアーの企
画や県の観光連盟・県旅
行センターあるいは報道
機関と連携を取り進めて
いく。もう一つの柱は、
グリーンツーリズム。十
曾の旅行村あるいは楠本
川溪流自然公園や、農業
との関係を組み合わせな
がら取り組んでいく。
課を超えたPRを組織
的にやっているかといえ
ば、やっていないという



観光で伊佐の 活性化を

久保 教仁 議員

答

体験住宅について
では、提言の方向で
良いと思う。それを3年
目で考えるのか、5年目
で考えるのか議論しなく
てはならない。新しいコ
ンセプトで3棟なり4棟
を別の場所につくり、こ
れを繰り返す事は経済の
循環にもなる。

問

施工者の提案方
式で完成した移住
体験住宅4棟が3年目を
迎える。商品価値のある
うちに、築5年ぐらいで
移住を希望される方に売
却し、新しく体験住宅を
建築する考えはないか。
また、この年末、カヌー
の合宿が2泊3日で湯之
尾で行なわれる。かつて、
県下一周の川辺チームも
合宿した経緯もある。市
外の高校生や大学生等が
スポーツや文化的なこと
で市内の宿泊施設を利用
する場合、合宿誘致推進
補助金という制度は考え
られないか。

答

合宿誘致は、今は行なっ
ていない。しかし、事業
としては考えられる事だ
と思う。いくつかの団体
がキャンプをしている。
そうした 団体の実情を
聞き、どの様な補助が出
来るのか検討したい。

その他の質問

○伊佐米の統一基準

○重点作物の振興計画

○直売所手数料の一部助
成を。

行政調査報告

総務文教委員会 福井～京都



経済建設委員会 長野



環境福祉委員会 岡山～京都



環境福祉委員会

環境福祉委員会の行政調査について報告いたします。

去る10月3日から5日にかけて、京都市の嵯峨嵐山の小水力発電所と、岡山県北部の真庭市「バイオオマスタウン」に、伊佐市活性化のヒントを見出すべく行政調査を行いました。

まず、京都市嵐山の小水力発電設備について報告します。

「合資会社嵐山保勝会水力発電所」が運営しているものです。

発電量の規模は小さいものでしたが、歴史と地域性を活かした市民の熱意と、その熱意に応える事のできる行政の力と協力の大切さを研修し、先日調印された我が市の曾木の滝小水力発電所への取り組みにも大いに期待できるものと確信いたしました。

続いて、バイオオマスを市全体で取り組み、先進地として有名な岡山県真庭市で研修いた

しました。

真庭市は、森林面積が約79%を占め西日本屈指の木材産地「木材の町」であります。

工場見学も行いましたので報告します。

住宅などに使われる集成材の生産で有名な、「銘建工業(株)」を見学しました。次に、時代のニーズに合わせた様々なコンクリート製品を製造している

小水力発電
京都嵐山



銘健興業株式会社
ペレット工場
岡山県



「ランデス株式会社」を見学しました。製品のなかでも、木材業の副産物を活用した木片コンクリートは、国内唯一の製造工場であり、注目されています。

豊かな自然に恵まれた伊佐市の可能性を、行政と地域が連携しながら見いだせることを確信し、行政調査の報告いたします。

経済建設委員会

経済建設委員会では、10月3日から5日まで2泊3日で信州（長野県）へ出向き、農作物等に深刻な被害をもたらす有害鳥獣を地域資源として積極的に活用している実情と対策、そして長野県グリーンツーリズムについて行政調査を行いました。

長野県とタイアップして有害鳥獣を地域活性化に繋げるジビエ料理第一人者、藤木シェフのフランス料理店「エスポワール」で研修を行いました。

藤木シェフによると、「近年ジビエ料理（野生鳥獣料理）は都市部を中心に愛好家が増えており、農作物を荒らす野生鳥獣を駆除で終わらすのではなく、森や自然の恵みとして、食して供養するという気持ちでジビエ料理を提供している。」とのことでした。翌日の長野県庁での研修では県は「衛生マニキュアルを公表した。野生鳥獣被害対策の実施体制として、林務部、農政部、環境部、警察本部などで組織す



藤木シェフのジビエについての説明

る対策本部を設け、野生鳥獣被害対策の支援の取り組みを行っている。」とのことでした。

長野県グリーンツーリズム協議会は37市町村及び4団体で構成し、農家には宿泊せず、ペンションやホテルと共存共栄し、県内では8地区121軒で実施し、年間1万人の利用者がある。ということでした。

次に、信州いいやま観光局の取り組みでは「着地型（地元密着型）」では、飯山市の自然や文化などに触れることができるプランが、311もある。月に4.5回受けたら5万円程の収入になる。全てJTBが振り分けている。」とのことでした。

研修を終えた後では、ジビエ関係課の伊佐市林務課及び伊佐市地域振興課の職員と意見交換会をして研修成果の確認をしたところでありました。

鳥獣処理施設



総務文教委員会

10月5日から3日間の行程で、行政調査を行いました。

10月5日は、福井県敦賀市役所防災センターにおいて、地域防災の取り組みについて研修いたしました。敦賀市では、補助事業による町内会の自主防災活動の育成に力を注いでいるとのこと、1、自主防災会設立補助金で、地区単位で、上限8万円、設立費用や資機材購入費、訓練費用などを補助。2、自主防災会運営費補助を、地区単位で上限10万円。3、地区の資機材収納倉庫設置に補助金を上限20万円でした。このほかにも、防災士資格取得の補助や地域防災クラブリーダー研修会の開催など、共助の育成を行なっているとのことでした。10キロ圏内に5箇所の原子力発電所を有しており、原子力防災対策についても、ハザードマップ作成や、情報伝達システムを行なっています。情報伝達は、ケーブルネットワークにより、



敦賀市防災センター（集中司令室）

屋外スピーカー、FMラジオ、テレビ、個別受信機で行なっており、現在、個別受信機の導入を推進しているということでした。

次に、10月6日、福井県小浜市での小学校再編について、報告いたします。

小浜市においても、今日までアンケートを実施し、また、地区住民への説明を、平成21年から57回開催し、時間をかけて、住民の理

解を得られるように、対応を心がけておられました。小学校は、地区コミュニティのシンボルの存在であり、その保存、活用についても様々な意見を慎重に受け止め、地域民意の対応に配慮してきた。3つから4つの小学校を1つにしていくというところで、統合の話がまとまった地区から、再編に取り組んでいくとのことでした。

小浜市議会事務局

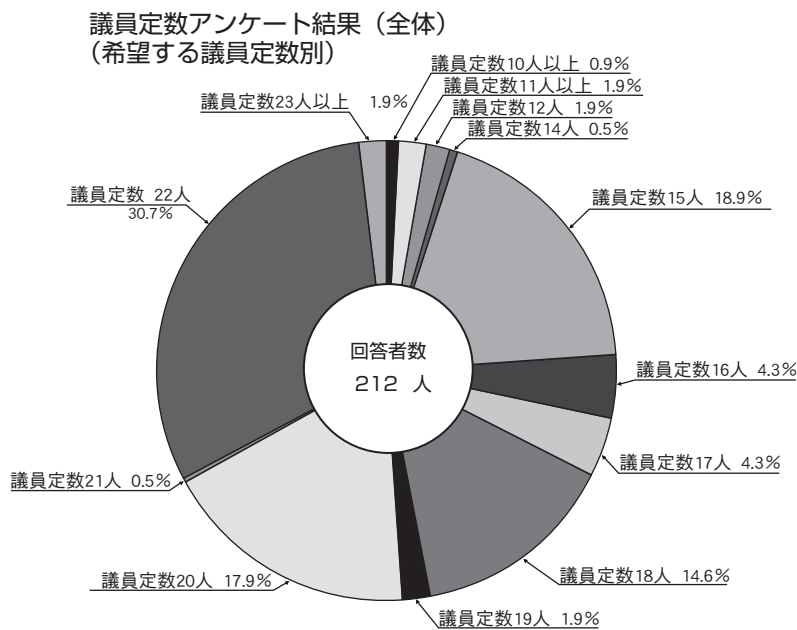


議員定数、4減の18人に!!

議員定数調査特別委員会報告

委員長 岩元 克頼

- (1) 平成22年6月24日委員会設置。委員に議長を除く全議員が就任。委員長に岩元克頼議員、副委員長に植松尚志郎議員選出。
- (2) 第二回委員会、8月20日。今後の調査活動について協議。
- (3) 第三回委員会、10月19日。出水市議会を調査（定数30人↓26人）
- (4) 第四回委員会、11月9日。いちき串木野市（定数22人↓18人）、日置市（定数26人↓22人）



- (5) 第五回委員会、平成23年1月17日。市民アンケート調査及び市民との直接対話による意向調査の内容と方法等を協議。
- (6) アンケート調査。1月28日～2月15日。高校生以上500人を対象に調査票及び資料を送付。（回収数212人）
- (7) 6月30日～7月5日、各中学校区毎に4会場地域懇談会を開き、市民からの意見聴取。
- (8) 第9回委員会、8月29日。地域懇談会の検証及び今後の調査活動について協議。
- (9) 第10回委員会（9月27日）から第12回委員会（11月8日）までの3回にわたって、これまでの調査を踏まえ、伊佐市議会の新定数について議論。本市における人口動態、地理的社会的状況、産業構造、財政、市民の意向、二元代表制の在り方、地方分権等さまざまな角度から意見が出され、最終的に新議員定数を18人とする意見と20人にする意見に集約され、採決の結果、11対9の僅差でしたが、新定数は18人とする事で当委員会の結論となりました。



請 願 と 陳 情 の 結 果

今回の定例会で審議された皆様からの請願書の結果が決まりました。

件 名	申 請 者	負 託 先	結 果
郵政改革法案の早期成立を求める請願書	伊佐市菱刈荒田 3465-1 井 上 次 男 伊佐市菱刈前目 4744-2 益 満 浩 征	総務文教委員会	採 択

意 見 書 の 提 出

郵政改革法案の早期成立を求める意見書

これまで郵便局は、地域社会において「情報」「安心」「交流」の拠点としての役割を担っており、特に過疎化が進む本市においては、地域住民の利便性の増進等に大きく貢献していた。

本市においては金融機関が郵便局のみという地域が多数あり、住民生活にとって死活問題であると懸念している。

これらの不満・不安を解消するため、昨年4月郵政改革法案が閣議決定され通常国会に提出されたが、以後秋の臨時国会、先の通常国会と未だ成立しておらず、たなざらしの状態が続いている。この間、郵便事業における経営不安も報道されているところである。

全国2万4,000郵便局ネットワークは国民共有の財産であり、生活に必要不可欠なライフラインでもある。それを今後も維持し、更に地域社会が有効活用していくためにも、一刻も早く国民にとって有益な郵政改革法案を成立するよう強く要請する。

平成23年12月22日

鹿児島県伊佐市議会議長 山下 親 志

<< 提出先 >>

衆議院議長	横 路 孝 弘 様
参議院議長	平 田 健 二 様
内閣総理大臣	野 田 佳 彦 様
総務大臣	川 端 達 夫 様
郵政改革担当大臣	自 見 庄三郎 様

ひとくちコラム

伊佐で働くエキスパート

夕暮れ（青木）



私がこの伊佐市に赴任してきて、早いものでもう2年あまりになります。サラリーマンでするので転勤はつきものののですが、私にとっては初めての転勤&単身赴任でした。初めてこの地に来たのは10月初旬の夕方でした。タクシীর車窓から、西日に揺れる輝く一面の稲穂を見て、感動したのを覚えています。元々生まれ育ったのは、愛媛の片田舎。そこも盆地だったこともあり、不思議と親近感が沸きました。

私の宝庫でもあります。最初に出会った稲穂輝く田もそうですが、季節に応じて自然が、イベントが、様々な顔を見せてくれます。

また、飲み会の帰り道に見た星空が、あまりに綺麗なのに驚きました。就職以来すっかり冷めていた天体写真熱が、ここに来て再燃しているのも、この伊佐ならではの、だと思っています。はじめのうちは見るもの撮るものの全てが新鮮なのですが、1年経つと一通り見てしまった感じになりました。そんなときに写真仲間、写真友会と出会いました。

そこで、自分の知らなかった伊佐を見ることができるようになったし、逆に、地元の方々が思いもしなかつた角度で、伊佐を撮影している自分がいることにも気がつきました。自分の行動範囲だけで見ていると、「こんなものだ」と自分で限界を

紅葉（忠元公園）



決めてしまうのですが、知っている人に聞けば、実はもっとすごい場所がある、というわけです。色々な人と出会いが増えるごとに、それぞれの繋がりがあがる事にも驚かされます。一見、全く関係なさそうな自分の知人同士が、実は知り合いだったり、先輩後輩だったり、殆どの人がなんらかの形で有機的に繋がっている気がします。単純に人の数が少ないから、というだけでなく、それ以上に、それぞれを繋げる何かがあるにはありそうな気がします。

（知人が多いというのはよい事ばかりではなく、同様に赴任してきた人の中には、市内での行動が皆に見られているように、なんだか安心できないという方もいます。そんな人には、見かけても「昨日〇〇スーパーにいたね」と、話をするのは遠慮した方が良いでしょう。）

写真の話に戻りますが、恐らく、地元の人それぞれに、自分なり

の伊佐の良い場所があるのでしようが、それを繋ぎ合わせることもっともつと良い所が広がるんじゃないかと思ひますし、それができるのが、伊佐なんじゃないかと思っています。ホテル舞う川、突き抜ける青空、果てしなく輝く夕焼け、数え切れない星々。まだまだ自分の知らない伊佐が、相当眠っているんじゃないかと。もう少し、新しい伊佐を発見し続けたいと思います

竹田 賢二
（大口電子株式会社勤務）



かかし（牛尾）

総 括 質 疑

質 問 者	質 疑 事 項	質 疑 の 要 旨	質疑の相手
諏訪 信一議員	1 議案第 57 号 平成 23 年度伊佐市 一般会計補正予算(第 4 号)	(1) 款 4 衛生費 目 5 環境衛生費 節 19 の太陽光発電システム 設置事業 473 万 4,000 円の補助金について	市長
柿木原 榮一議員	普通財産の無償貸付について	(1) 旧大口市が土地建物を、行政財産として取得した経過の説明を。 (2) 行政財産の所管課及び普通財産とした場合の所管課はどこか。現在までの目的外使用の賃貸契約書はあるか。 (3) 土地(宅地)、建物(木造)の評価額は。 (4) 貸付の相手方の要望か。相手(会社)は、宅地等もあるが、等価交換の話し合いはあったのか。 (5) 議案に期間の指定はないが、どうなっているのか。	市長
	伊佐市過疎地域自立促進計画の一部変更について	(1) 自立促進施策区分 7 地域文化の振興等の伊佐市文化会館大規模改修事業アスベスト撤去工事について	市長
	市道路線の認定及び変更について	(1) 里町・轟公園線は、延長 508. 7 mであるが、3 自治会長要望書は、終点が市道グラウンド井手原線までのはずであったが、予定としてどうなるのか。	市長
古城 恵人議員	和解及び損害賠償の額の決定について	(1) 事故の状況説明と再発防止対策等を示せ。	市長・担当課長
	普通財産の無償貸付について	(1) 無償貸付を決定されるに至った経緯と根拠について、具体的に示せ。	市長・担当課長
鶴田 公紀議員	平成 23 年度伊佐市一般会計補正予算(第 4 号)	(1) 款 3 民生費 項 4 生活保護費 目 2 扶助費 節 20 扶助費 9,360 万円について	市長

表紙によせて



初雪の舞い降りる 1 月 4 日、午前 7 時過ぎ、菱刈鉦山初荷式がありました。
一年の無事故を祈って恒例の行事ですが、皆さんの真剣な姿が印象的でした。

伊佐市のどの地場産業も、どの進出企業にしても本市の繁栄のため日々努力して頂いています。住友金属鉦山(株)の菱刈鉦山は関連会社を含め 200 人以上の人々が従事されています。菱刈鉦山開鉦以来、今年が 30 周年を迎えます。毎年純金生産 7.5 トンを維持しながら現在も 20 年分の鉦脈を確保し更に資源の開発を進めています。

数年前、住友金属鉦山本社で幹部が話されたことは「菱刈鉦山の延命が伊佐市への貢献であり今後とも丁重に長く掘りたい、そして共存共栄を続けたい。」とっておられます。伊佐市は旧牛尾鉦山の時代から住友金属鉦山(株)とのご縁で現在も大口電子が稼働し、多くの市民や関連産業が恩恵を受けています。これからも末永く同社との共存共栄が続くよう願っています。

(鶴木)

議会を 傍聴して



宮脇 和生

三十三年の転勤族から解放され、郷里での暮らしも早十年が経ちました。確かに橋や道路は整備されました。私は、先の国勢調査に携わり、これらの集落はどうなっていくのか大きな不安にかられました。若者を地元につなぎとめる手立て、方策は果たしてどうでしょうか。私はこれまで、仕事上他所の議会を傍聴する機会がありました。もちろん伊佐市の議会も友人と誘い合わせ傍聴しましたが、感想はと問われると正直なところ「仲良しムード」が透けて見えるようです。また、提案された事柄が、市民にとって良か否か徹底した議論がもつとなされているのではないかと思います。これまでも補助金で箱ものができたはいいが、維持管理ができず成果を見ぬまま消滅している例もあります。お隣の市議長が、南日本新聞のコラムで議会の役割

① 行政の監視
② 市民とのパイプ役
③ 政策の提言

と言っています。私も全く同感です。今後の市議会の良い意味での奮闘を期待します。

3月定例会のお知らせ

- 2月24日(金) 本会議(招集日)
議案上程、提案理由説明
- 3月2日(金) 本会議(2日目)
総括質疑、即決決議案処理
委員会負託、陳情上程
- 3月6日(火) 経済建設委員会
- 3月7日(水) 環境福祉委員会
- 3月8日(木) 総務文教委員会
- 3月9日(金) 総務文教委員会
- 3月14日(水) 本会議(3日目)
一般質問
- 3月15日(木) 本会議(4日目)
一般質問
- 3月16日(金) 本会議(5日目)
一般質問
- 3月23日(金) 本会議(最終日)
付託案件審査処理
結果報告・議決処理



編集後記

東日本大震災よりもうすぐ一年。大震災関連の記事や報道のない日は一日もなかったように思います。大震災の悲劇を忘れることなく後の教訓にするため「伝え続ける」報道関係者の姿勢には大いに学ばなければならないと考える今日この頃です。

私ども議会広報等編集委員も、12月議会終了と同時に、「どの記事を掲載するのか、わかりやすく伝えるには・・・」などとあれこれ協議しながら作業をすすめてまいりました。シリーズ化しようと前号で掲載した『あの質問はどうなった』の記事は紙面の都合により今回は休載となりました。次号をお楽しみに。

委員会では今後も「わかりやすく」をモットーに市民の皆様親しまれる紙面づくりに努めてまいります。ご質問、ご意見等ございましたら是非当委員会まで。

畑中 香子

伊佐市議会のホームページをご覧ください。
アドレスは下記の通りです。

<http://www.city.isa.kagoshima.jp/gikai/index.html>

ご自宅のネット接続されたパソコンで、議会中継をご覧ください。議会中はライブを、また、過去の議会の動画もご覧になれます。



伊佐市のホームページ⇒伊佐市議会⇒議会インターネット中継クリックしてください。

編集・発行責任者
議長 山下親志

議会広報特別委員会

委員長 古城恵人
副委員長 畑中香子
委員 鵜木 誠

市来弘行
丸田和時
緒方重則